

2019～2021 年度の中期経営計画を策定

ソフトバンク・テクノロジー株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長 CEO：阿多 親市、以下 SBT）は、更なる成長を目指し、2019～2021 年度を計画期間とする第 3 次中期経営計画を発表したことをお知らせいたします。

SBT は 1999 年に現商号に変更し、店頭公開してから 20 年という節目を迎えるにあたり「Vision 2030」を立ち上げ、全社員で大切にしている価値観、2030 年の世界、その未来における私たちの存在意義を年代ごとの約 130 チームで真剣に議論してまいりました。

そして、この 4 月より「Vision 2030」で得られたビジョンとバリューを加えた新しい経営理念の下で「日本企業の競争力を高めるクラウドコンサルティング&サービスカンパニー」を目指し、第 3 次中期経営計画を策定しました。

国内労働人口の減少や IT 人材の不足といった課題に対して、第 1 次中期経営計画、第 2 次中期経営計画で磨いてきたクラウドとセキュリティの技術とノウハウを、付加価値の高いサービスとして広く提供することで、国内企業の働き方改革の推進をしていきたいと考えています。また、事業部門が主体となる本業成長のための戦略的な IT 投資に対してもビジネスパートナーとして対応してまいります。

■第 3 次中期経営計画

<位置付けと重点テーマ>



当社グループでは、「サービスプロバイダーへの進化」と「コンサルティング&ビジネスITの創出」を重要テーマに位置付け、第3次中期経営計画を推進してまいります。

報道関係者様向け
お問い合わせ窓口

ソフトバンク・テクノロジー株式会社 コーポレートコミュニケーショングループ（吉田、與儀）
TEL：03-6892-3063 / Email：sbt-pr@tech.softbank.co.jp

(a)サービスプロバイダーへの進化

- ・ サービス化につながるシステム開発に集中
- ・ クラウド&セキュリティのサービス化推進
- ・ パートナーセールスの確立と強化

(b)コンサルティング&ビジネス IT の創出

- ・ 既存ビジネスのクラウド・DX 推進
- ・ IoT や先端技術を活用した新ビジネスの協創
- ・ スクラム開発の浸透

<経営目標（2021 年度定量目標）>

目標とする経営指標、重点テーマ

FY21

- 営業利益 **43億円** (FY18/25億円を起点にCAGR **20%**)
- BIT&CIT売上高構成比率 **50%へ**
- ROE **13%**

サービスプロバイダーへの進化



- クラウド / セキュリティ
- パートナー
- ウォーターフォール開発中心
- ツール・サービス化
- 付加価値の提供

+

コンサルティング&ビジネスITの創出



- DX / IoT
- 直販
- スクラム開発中心
- スクラッチ・個別
- 付加価値を協創
- ツール・パッケージ化

当社グループは第3次中期経営計画において、ビジネス IT ソリューション及びコーポレート IT ソリューションを注力事業に設定し、事業の拡大と企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

2019 年 3 月期における当注力事業の売上構成比率は 35%ですが、「注力事業の売上高構成比率 50%」まで引き上げるとともに、「連結営業利益 43 億（2019 年 3 月期を起算に CAGR20%成長）」を最重要指標に掲げ、取り組みを推進してまいります。また、2022 年 3 月期における株主資本利益率（ROE）は 13%を目標に経営を進めてまいります。

▼詳細は下記の第3次中期経営計画説明資料をご覧ください。

https://www.softbanktech.co.jp/corp/ir/event/presentations/pdf/4726_mp201903_4q.pdf

報道関係者様向け
お問い合わせ窓口

ソフトバンク・テクノロジー株式会社 コーポレートコミュニケーショングループ（吉田、與儀、皆口）

TEL：03-6892-3063 / Email：sbt-pr@tech.softbank.co.jp

※本リリースに記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。